

沖縄工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和3年度自己点検・評価

評価日時: 令和4年3月14日

会議名称: 教務委員会(令和3年度第15回)

開催場所: 沖縄工業高等専門学校会議室

目的: 沖縄工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の令和3年度自己点検・評価

評価項目: 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	全学科に対し、本プログラムに関わる科目を必修科目として設定し、教務委員会において、科目の履修状況および単位修得状況を確認している。科目履修については、毎年度100%の履修となっている。
学修成果	B	毎年度、授業改善アンケートを実施し、本プログラムの全科目に対して、学生の理解度、満足度等を点数化し、次年度以降の改善に活用している。また、今後は、本プログラムの科目を通して「学生が身に着けることができた能力」をアンケートの項目に追加し、その結果を元に本プログラムの改善を図る。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	学期毎に授業改善アンケートを実施しており、本プログラムの全科目に対して、学生の理解度、満足度、身に着けることができた能力などを分析し、次年度以降の改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルを全学生が修得するものとしており、そのため本プログラムに含まれる科目は全て必修科目としている。また本校HPで、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関連した科目を明記することで、在校生・入学希望者等へ広く周知している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムに関わる科目はすべて必修科目としているため、全学科の卒業時の履修率は100%となる。(ただし、編入生および留学生を除く)
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	C	令和3年度終了時点で、本教育プログラムを修了し、卒業した学生はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	参与の会、産学連携協力会における外部評価ならびに高専機構による幹事監査において、BYODの導入による、早期からの情報技術教育が高い評価をうけた。ただし、非情報系学科における情報技術教育には、改善の余地があるものと認識している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	C	本プログラムに関わる科目において、実データの分析、実習課題等を通じ、数理・データサイエンス・AIの活用法を学ぶことの楽しさや意義を伝えている。同時に、情報セキュリティ、個人情報の保護などデータを扱い活用する技術者に求められる倫理観を育む教育となるよう留意している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	学期毎に授業改善アンケートを実施しており、本プログラムの全科目に対して、学生の理解度、満足度、難易度などを分析している。加えて、説明の分かりやすさ、講義の雰囲気、改善してほしい点などの情報も収集し、次年度以降の改善に活用している。

A:自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた

B:自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた

C:自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している

D:自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない